

広島市安佐南区・安佐北区の土砂災害

2014年8月20日未明、広島市安佐南区・安佐北区の山裾の住宅地が、土砂災害によって大きな被害を受けました。気仙沼市役所の同僚で、復興庁からの応援職員だったUさんが、10月からボランティア活動の責任者になるために、故郷の広島市へ帰りました。私は去年の11月にはるばる広島へ行って、23日にUさんが現地を案内してくれました。

JR加部線と並行して走る国道54号から、被災地の阿武山を眺めると、紅葉の麓に家や高層建築がぐるっと建ち並び、土石流の流れた跡が縦に何筋も見られました。現地は斜面なので、道路は狭く、勾配は10%以上あります。そのために、救助活動のために建設機械が道路を上れず、手作業で救助作業をせざるをえませんでした。

土石流の流れた跡は空き地で、人家は無く、犠牲者の冥福を祈るために、花束がいくつも置かれていました。避難所は既に閉鎖されていて、仮設住宅はありません。被災者の方達は、県や市のアパートや親戚の所で避難生活を送っています。

いくつかのボランティア団体が、空家や空き地を借りて、活動を続けています。阿武地区の人から話を聞くことができました。地区には80世帯200人がいましたが、現在住んでいるのは、3戸とのことです。4人が亡くなりました。今でも夜になると、土砂災害を思い出して、寝られない人もいるとのことです。

家を再建するためには、家だけでなく、土留（擁壁）も復旧しなければなりません。家の全壊世帯には、わずかではあるが300万円が国から支給されますが、土留（擁壁）には支給されません。

自公連立政権は、家は私有財産であって、国は私有財産には関与できないという立場です（自然災害＝自己責任論）。国会議員は、観劇やネギを買ったり、SMバーやキャバクラには税金を使っても、被災者の家の再建には税金は使えないのです。1995年の阪神淡路大震災後、被災者や故小田実さんを始めとした支援者の運動によって、現在は家の全壊世帯には、300万円の被災者生活再建支援金が支給されるようになりました（大規模半壊世帯は250万円）。最近に家を建てた人は、二重ローンに苦しんでいます。

日本では、災害はいつでもどこでも起こりうる

私が現地で実感したことは、「人間は自然（災害）に対しては無力である。人間は自然と共存して行くしかない」ということです。日本は、台風・土砂災害・地震・津波・火山噴火と世界有数の自然災害大国です。災害は、いつでもどこでも起こる可能性があります。原発の再稼働をしようとしている人達は、「人間は自然を征服できる」と本気で考えているのでしょうか。

昼に食べた「薫風（くんぷう）」のお好み焼き、余りのおいしさに、土砂災害のことはすっかり忘れてしまいました。

【土石流の跡（広島市安佐北区）】



【建物は撤去して空き地に、所々に花束が（(広島市安佐北区)）】



【8・20 広島市土砂災害】＊人的被害（2014年9月19日現在）：死者74人、負傷者44人
＊避難状況（2014年9月2日現在）：避難勧告2,516人、避難者838人
＊家屋被害（2014年9月2日現在）：全半壊65件、一部倒壊64件、床上床下浸水263件

